

# 早生有用広葉樹等を活用した短伐期林業

林業研究部

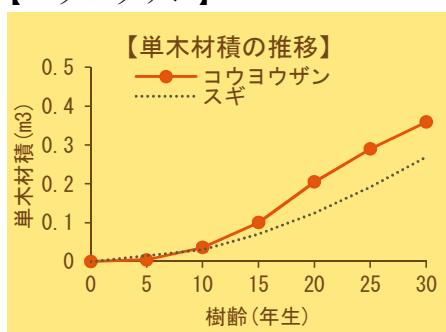
## 1. 研究の背景

スギをはじめとした従来の造林樹種は、6年程度の下刈期間を要し初期育林経費が高いうえ、伐期が40～50年であり資金回収までに長期間を要する。林業の採算性を向上させるために、初期育林経費が軽減でき、短伐期施業が可能な成長の優れた樹種（早生樹）が求められている。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ・短伐期に適すると期待される早生樹（コウヨウザン・チャンチンモドキ）について、成長・材質の特性を調査・解析
- ・両樹種とも成長に優れ、初期育林経費の軽減、短伐期施業による資金回転率の向上が期待できる。

【コウヨウザン】



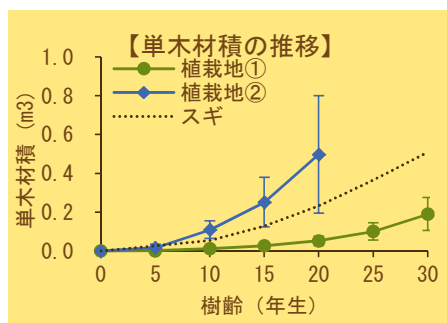
20年生時の材積がスギの1.6倍  
→短伐期施業への利用可能性が高



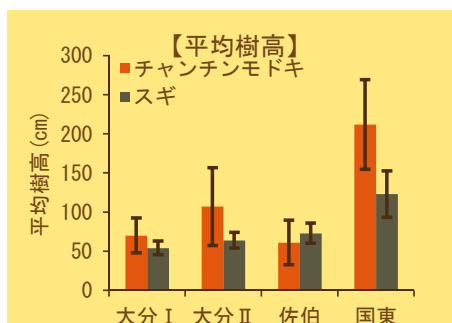
※萌芽更新により再造林経費を削減でき、成長が早い萌芽により初期育林経費を削減できる可能性が高い

54年生時に伐採した伐根から、萌芽が旺盛に発生

【チャンチンモドキ】



試験地②では20年生時の材積がスギの2.1



4試験地中3試験地で2年生時の平均樹高がスギの1.3～1.7倍

## 3. 期待される効果

- ・初期育林経費の軽減と資金回転率の向上が可能となり、採算性が向上
- ・建築土木用材のみならず、今後需要増加が見込まれる木質バイオマス発電にも対応可能
- ・造林樹種の増加により多様な森林づくりが可能

## 4. 担当機関連絡先

林業研究部 森林チーム  
TEL:0973-23-2146  
住所:日田市大字有田字佐寺原35